

## 昔の物を見直す

執務室の窓から、幹が途中から2つに分かれて伸びているヨーロッパトウヒが見えます。2004年の台風18号の強風によって幹が途中から折られたため、その脇から幹を伸ばしたものです。不格好ですが、生命をつないでいます。研究所の正門の脇には大きなドロの木がありましたが、こちらは、そのときの強風で倒れてしまいました。研究所の前庭にある松林の中のベンチとテーブルは、その木を使って作ったものと記憶しています。

ところで、この台風の時には、折れた枝などが電線に被害を与え、各地で停電が発生しました。我が家も停電に見舞われ、まだ幼い子供を抱えて不安だったのか、家内から職場に電話があり、停電になって携帯電話の電池も無くなりそうだと心配な様子でした。私は、自宅の固定電話が旧型の電話機であったのを思い出しました。電話線は電力線とは別に配線されています。最近の多機能な電話機は停電時には使えないようですが、単機能の旧型の電話機は電話線から供給される微弱な電力で通話が可能です。幸い、固定電話は無事使えることが確認でき、妻も安心したようでした。ちなみに、昨年の東日本大震災でも、被災地に住む先輩から、自宅の“黒電話”は使えて助かったという話を伺いました。最近はやりの光回線は通信速度も速く、便利で快適でかつ様々なサービスを提供してくれますが、停電時は使えません。時々光回線の勧誘の電話が来ますが、このような経験があるので、光回線に乗り換えるつもりは、今のところありません。

また、聞くところによると、今年の冬は、ポータブル石油ストーブが売れているそうです。燃焼時や消火時に臭いがでることや、時々換気が必要なこと、温度調整が手動でありタイマー点火もできないなど、決して便利で快適な製品とはいえません。しかし、商用電源を必要とせず、ストーブの上で煮炊きもできることから、需要が高まっているそうです。

近代の便利で快適な生活を実現する多機能な物やサービスは捨てがたいし、魅力的ですが、災害時に強いのは、昔からある、シンプルなもののように思います。

(雪氷チーム 上席研究員 松澤 勝)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。